

その昔、坂本北部の西側山麓の長畑ながはたけと云う畑の南端に、誰が植えたか、自然に芽生えたか定かでないが、一本の藪椿が成長していった。

樹齢も六〇〇年に及ぶと云う。今日現在、近畿地方でも、これに類する椿は二、三本（この椿も含む）しかないと云う、珍しい大木である。

幹廻り約二、五m。高さ十二m。現在兵庫県郷土記念物に指定されている。

私たちが小学低学年の頃、当時の野間谷第二小学校（現北小学校）校長が作詞され、運動会などを通じて、永らく歌い継がれた野

間谷音頭があった、その一節に、

『ハァー見たか、聞いたかね、

ナレダ、ナレダネ、

お化けの椿よ、ヨイヨイ、

年に二・三度、

年に二・三度、花咲かす、

ハァー聞いて、

チョイト来て野間踊り…』

と唄われていた。

私達の知らない遠い昔から、人通りの少ない細い県道端に誰が賞賛もすべくもなく、年に二、三度も花を咲かせ、お化けのような椿とか噂が、噂を呼んで、今の世までも化椿と語り継がれた。加えて人通りの少ない寂しい山奥で、夜ともなれば今も昔も変わらない暗

像話が今も物語として咲き誇っているヤブ椿。それが化椿。

昔を語るように、椿の基に、三界萬霊や五輪塔が安置されている。

この坂本の遠近の山麓田畑に五輪塔と思われる祠ほこらがたくさん安置され、存在していたが、最近の圃場改革によって、その姿はほとんど見られない。古文書によると、一五七五年（天正三年）頃、野間城（俵田、城山）が別所長治の奇襲により落城し、多くの将兵が傷つき倒れ、青息吐息でこの地を北へ北へと逃れ、途中で倒れ力尽きて、坂本地内でほとんど息を引き取った、と云われている。その将兵を祀る祠があちこちに散在している。その類似の祠が化け椿の基にも現

在祀られているといわれている。

何百年もの出来事を見つめ乍ら、今日、尚、泰然として四方を睥睨へいげんして咲き誇る化椿。

六〇〇年の樹齢、坂本の歴史として永久に咲き誇ってほしい。

松田輝夫



三界萬霊と五輪塔



道路から見た全景



南側から見た化椿